

委員会 審査 Q & A

提出された議案等についての審査経過

本会議で付託された5件の議案等と3件の請願・陳情について、10日から15日にかけて行われた各常任委員会で審査しました。

各常任委員会での審査について、主な質疑応答の内容をお知らせします。

総務

総務

(委員) 瀬村 村宅 田川
木田 野大 村荒

100年に一度の経済危機 地元業者の育成にも配慮を

Q 景気底入れとの話もあるが、依然、中小企業は厳しい状況にある。市が行う事業には地元業者を積極的に使っていたきたい

A 市の建設業協会からも要望書が提出されていますが、市が行う事業は、あくまでも入札により決定されるものです。

しかし地元業者の育成も重要な課題です。地元業者がより多く入札に参加できるように、適切な競争参加条件を設定するため、検討委員会で制度を一部見直ししました。今年度には、地元業者育成と適正な入札制度の確保、両方の観点から良い成果が出ることを期待しています。

固定資産評価の見直しは

Q 合併前、固定資産税の算定が異なっていたが、現在どのようになっているのか。

A 今年4月に出された評価額に

ついては、市内統一された算定基準によるものです。

これまで旧町村ごとの算定基準で出された評価額でしたが、今年から小美玉市として一斉の見直しを行い、市域全体として算定し、4月に市民の皆さんに通知しました。

固定資産税?

毎年1月1日現在(賦課期日)に、土地・家屋・償却資産、などの固定資産を所有している方(または現に所有する方)に課税する地方税(市税)。

税額は、原則、資産価値(固定資産税評価額)を課税標準として、税率(1.4%)を乗じ算出する。3年ごとに評価額の見直しが行われる。

補助金の積極的な活用を

Q 市内で消火栓等の設置要望はどのくらいあるのか。

A 昨年は7件ありました。今年度は現在のところ2件です。

Q 国の補助金などを活用して、安心安全のまちづくりにつながる事業を優先的に実施していただきたい。

文教福祉

(委員) 田本 目川 井本
島山 笹小 藤岩

適応指導教室を移転

Q 現在、小川図書館の2階で行う適応指導教室(ハーモニーおみたま)を移転するため、改修費が計上されているが、移転先は?

A 旧小川幼稚園です。

Q 旧小川幼稚園では、放課後子どもプランが実施されているが、不都合はないか。

A 通路の一部を仕切り、また、出入り口も分けて利用することで、なるべく接点を持たせないような配慮をしていきます。

Q 利用する子ども達にとつて不都合なく、それぞれの事業の目的がきちんと果たせるように環境を整えていただきたい。

適応指導教室?

教育委員会が設置し、不登校等の問題を解消するため、指導員を置いて、不登校の児童生徒への相談・指導、また、その保護者の相談等を行う。

市内では美野里地区に「パステル小美玉」、小川地区に「ハーモニーおみたま」の2カ所を設置。

新型インフルエンザの対応は

Q 新型インフルエンザの感染が拡大している。今後、強毒化した場合の対応はどうなるのか。

A 現在、策定されている行動計画は、強毒性の鳥インフルエンザを前提としたものです。

今回の新型インフルエンザは季節性と類似した弱毒性とされていますが、この行動計画に基づき対応が原則となりますので、国で示した基本的対処方針に従い、各部署で対応策を講じるよう準備をしています。

また今後、強毒化した場合についても、国・県からの情報を把握しながら的確に対応していきます。

インフルエンザ？

通常の風邪に比べ高熱などの全身症状が急に出現するなどを特徴とする呼吸器感染症。

乳幼児・高齢者・基礎疾患をもつ方は、気管支炎・肺炎などの併発や基礎疾患の悪化を招く場合もある。主な感染経路は咳・くしゃみを介した「飛まつ」、ウイルスがついた手などを介した「接触」。

市民生活

(委員) 本原田 口藤 島 橋 萩 大関 加福

防災行政無線の運用等の一本化は合理化の観点から行政先導で

Q 補正予算に計上する防災無線の劣化度調査の内容は。

A 無線塔の受信機や拡声器などの現状を調べるものです。今回は美野里地区56塔、玉里地区30塔分を対象に行います。

Q 地区ごとに放送時間や機器等に違いがある。統一の考えは。

A 現在、地区ごとに防災無線の機種や周波数が異なるため、運用方法等もそれぞれ異なります。

統一には放送設備も含めた一体的な見直しが必要なため、財源の確保が大きな問題です。また、従来の慣れ親しんだメロディや時刻を変更するには市民の皆さんのご理解が必要ですので併せて検討していきます。

Q 市民の声を聞くのも重要だが、行政が計画しないと進まない部分もある。放送業務の無駄を無くし合理化する観点からも検討していただきたい。

美野里地区の不燃ごみ分別収集事前の内部調整・市民周知に問題あり

Q 美野里地区の不燃ごみの分別収集が開始され、ごみが減ったとの報告もあったが、実際は分別のため家にストックされているだけ。ごみを減らす観点は重要だが、同じ分別をしていて、なぜ小川・玉里地区だけ無料なのか納得できない。早急に改善していただきたい。

A 市民の皆さんからも多数の意見が出ており、茨城美野里環境組合、構成市町村である茨城町と内部協議を進めてきました。10月からの有料シール券廃止に向けて、具体的に協議を進めていきます。

また、シール券の販売をお願いしている商工会には了解をいただいています。残分の取扱いの問題もありますので、併せて検討していきます。

時は金なり！期限内の事業完了を合併特例債を活用した道路整備

Q 合併特例債を活用した幹線道路整備で一部遅れている路線があるが。

A 昨年度、地元説明会を開きまして、現在、地権者の皆さんにご理解いただけるよう調整を進めているところです。

Q 合併4年目に入った。時限的な財源を活用しての事業なので、特に急ぐべき。進展が見られないと市民の理解も不審に変わる。

A この財源の活用は、合併から10年間までと区切られています。用地の協力が得られれば、工事のための予算は確保できます。

道路整備の用地交渉においては、地域の方すべてに、すぐにご賛同がいただけるものではありませんが、現在計画する路線と周辺道路の兼ね合いなど全体的な整備効果とも照らし合わせながら、期限内での整備完了を目指していきます。

建設

(委員) 村田 辺村 谷口 市戸 磯中 古山



ごみの量に応じて応分を負担する観点から実施されるごみ有料化。美野里地区では平成14年10月から不燃ごみの有料化が実施され、不燃ごみシール券、を収集容器（コンテナ）に貼付して回収される

防災行政無線（同報系）・・・市役所内等に設置する親局から子局（屋外スピーカー）を通じて住民に対して一斉に同じ内容を伝える放送システム。小美玉市全体では子局は164基設置される。